

本研究は、食をめぐる地域環境を物理的環境と社会関係的環境の2側面から捉え、「食資源の利用しやすさ」と「食を介した地域（職場）内での人と人との結びつき」の2つの下位概念からなる社会文化的な食環境指標の概念化を試み、評価尺度を作成した。また、それらが人々の食に特化したQOLさらには、生活満足、主観的健康度に与える影響を明らかにすることを目的とし、大都市、その他の市、町村の3群ごとに検討を行った。また、就業者を対象として、職場の社会文化的な食環境に関する検討も行った。このような検討から、以下の結果を得ている。

1. 地域および職場の社会文化的な食環境指標を作成し、内的一貫性を確認した。
2. 大都市、その他の市、町村の全てにおいて、食に特化した主観的QOLと「食を介した地域内での人と人との結びつき」および「地域の食資源の利用しやすさ」は、正の関連性を有することが明らかになった。
3. その他の市のみで、「地域の食資源の利用しやすさ」が豊かであるほど、主観的健康度が良好であるという関連性がみられ、その関連性は食に特化した主観的QOLを一部媒介していた。一方で、「食を介した地域内での人と人との結びつき」は、大都市、その他の市、町村のいずれにおいても、関連性を有さなかったことから、健康的な食習慣の実施など、今回測定しなかった他の要因に媒介されている可能性が考えられた。
4. 「食を介した地域内での人と人との結びつき」が豊かであることは、大都市およびその他の市において、高い生活満足度と関連性があった。各都市規模群のそれぞれのオッズ比(95%信頼区間(下限-上限)、以下同様)は、大都市で0.92(0.87-0.97)、その他の市で0.96(0.93-0.99)、町村で1.00(0.92-1.08)であった。他方で、その他の市のみで、「地域の食資源の利用しやすさ」が豊かであるほど、生活満足度が高いことが示された。
5. 就業者においては、「食を介した職場コミュニティの結びつき」($\beta=0.12, p<0.001$)と「食を介した地域内での人と人との結びつき」($\beta=0.10, p<0.001$)の両変数が食に特化した主観的QOLと有意な正の関連性を有し、地域に加えて、職場における社会文化的な食環

境の重要性が確認された。

6. 就業者においては、「職場の食資源の利用しやすさ」が豊かであるほど、主観的健康度が高いことが明らかになった(オッズ比 0.94(0.88-1.00))。就業者の健康増進における職場の物理的食環境の重要性が確認された。

以上、本論文では、物理的な食環境ならびに社会関係的な食環境の二側面からなる社会文化的食環境と、地域住民の食に特化した主観的QOL、主観的健康度、生活満足度との関連を明らかにした。物理的な食環境に加え、今までほとんど着目されてこなかった社会関係的な食環境を概念化し、食環境を包括的に捉えたことの意義は高い。また、社会文化的な食環境と、食に特化した主観的QOLおよび食に限らない主観的健康度、生活満足度といった指標が関連を有することを明らかにし、こうした概念の有用性を確認した。以上から、本研究結果は、地域の食環境づくりにおける実践的な示唆ならびに食環境研究における理論的な示唆をもたらしており、学位の授与に値するものと考えられる。